

第6分野 個性を活かし持続可能な地域づくりを推進するまち

基本方針1

歴史と伝統を守り 互いに支え合う
住民主体の地域づくりを進めます

～水とおどりと心のふるさと郡上八幡～

事業年度	令和5年度
責任部長	八幡振興統括
責任課長	政策推進課長
責 任 課	政策推進課
主管課・関係課	政策推進課、都市住宅課、観光課、社会教育課、観光課、総務課、学校教育課、企画課、農務水産課、林務課、商工課、高齢福祉課、児童家庭課

■ 施策の概要

施策1: 魅力的で安全なまちづくり

【主管課:建設部 都市住宅課】

八幡地域では、郡上おどりや各神社の神楽などの伝統的な文化が受け継がれています。しかしながら、少子高齢化やライフスタイルの多様化に加え、住民の意識の変化や組織の弱体化がみられる地区もあり、その継承が困難となっています。また、城下町である中心市街地は、無電柱化等景観に配慮したまちづくりを行ってきましたが、歴史的な町並みの中に空き家が増加し、結果として空き地化につながることで、城下町の景観が損なわれはじめています。加えて、幅員の狭い道路が多く、観光シーズンには交通混雑が発生し、混雑解消や安全性の向上が求められています。現代まで継承されてきた町並みや景観・文化を未来に引き継いでいくために、安全性の確保、保全や担い手づくりの取り組みを行っていきます。

施策2: 地域資源を活かした産業振興

【主管課:商工観光部 観光課】

新型コロナウイルス感染症の拡大により、これまで訪れていた外国人観光客や団体客が著しく減少し、観光関連産業に大きな影響が出ています。これらの社会環境の変化に柔軟に対応するため、近隣から観光客を誘致するマイクロツーリズムへの転換と、農業体験等自然を活かしたグリーンツーリズムを推進することで来訪者の増加を図る必要があります。このほか、木材等を活用した伝統的な産業や地域資源を活かした新たな商品開発を支援することで雇用の場の創出や生産力の向上を図るなど、地域経済の活性化を目指します。

施策3: 住民主体による持続可能な地域づくり

【主管課:市長公室 政策推進課】

これまで八幡地域では、自治会や公民館、地域づくり団体等が、それぞれ地域をより良くするための取り組みを行ってきましたが、いずれの組織も高齢化や人材不足、活動の停滞などの課題を抱えています。このため、分散している様々な生活サービスや地域活動の場をつなぐ仕組みづくりが必要です。今後も住み慣れた地域で暮らし続けるために、既存の団体が連携し、役割分担を明確にしながら地域課題の解決に向けた組織の設立を目指します。また、人口減少が進む中で、地域を維持するために、住民同士の支え合い活動や世代間交流に若い世代の参画を促すなど、地域の担い手確保に努めます。

■ 基本方針に係る総括評価(所見)

【責任部長:八幡振興統括】

郡上八幡の歴史・伝統と住民主体の地域づくりを推進し、安全で快適なまちづくりを進める中で、「魅力的で安全なまちづくり」に関しては、空き家対策、歴史的建物の保存、郡上おどりの担い手育成、交通混雑緩和の点で成果をあげているが、伝統文化の継承と城下町景観保全、交通問題の解消等については、引き続き対策を行うとともに、より効果的な対策を検討していく。

「地域資源を活かした産業振興」では、外国人誘客の促進、郡上おどりの担い手育成、デジタルマーケティングの活用などで成果が見られるが、観光PRの強化、デジタルマーケティングの一層の活用に力を入れ、郡上おどりの継承と活性化の推進については、郡上おどり保存活用計画を実行に移すための組織づくりを行い、具体的な取り組みとして実行に移すべく、関係各所との協議を進める必要があると考える。

「住民主体による持続可能な地域づくり」では、住民が主体となる持続可能な地域づくりは進んでいる一方、地区ごとで活動や意識に差異があるため、地域協議会における活動のコーディネートを通して、地域全体の地域運営に対する意識醸成や担い手の育成等が必要と感じる。

■ 施策ごとの評価

施策1:魅力的で安全なまちづくり

【主管課:建設部 都市住宅課】

評価 B 目指す姿に向けて概ね順調であるが、一部努力を要する。

▶後期基本計画策定時の「現状と課題」	◎後期基本計画策定時の「目指す姿」
・少子高齢化による伝統文化等の担い手不足 ・空き家等の増加による歴史的な町並みの維持が困難 ・狭あい道路の交通上の安全性の向上が必要	安全な交通環境が整い、空き家等が管理・活用されることで歴史的な町並みが維持され、景観や伝統的な文化が担い手により継承されているまち

I. 施策の取組効果や達成状況に関する分析(関連する事務事業の成果や積み残されている課題など) 【成果】 ・郡上おどりの担い手育成の新たな取り組みとして、小さいころから民謡に親しみを深めるために、八幡町内の小学校に講師を招いた民謡学習を始めた。 ・八幡町市街地の交通混雑の解消のため、観光客車両を外周道路から大規模駐車場へ誘導するための案内看板(常設)を9カ所設置した。 ・空き家対策としてチームまちやによる空家改修とサブリースが実施され、令和5年度においては空き家改修4棟、活用物件総数44棟となり、令和5年度末時点で73人が入居し、町並み保全の一翼を担っている。 ・郡上八幡北町伝統的建造物群保存地区において、特定物件は令和5年度に1件増加し123棟となった。また、その内修理物件は37棟で約3割が実施され順調に保存修理が行われている。 【課題】 ・郡上おどりや各神社の神楽などの伝統的文化の継承が少子高齢化やライフスタイルの多様化に加え、住民の意識の変化や組織の弱体化がみられる地区もあり、その継承が困難となっている。 ・城下町である中心市街地では、歴史的な町並みの中に空き家が増加し、空き家を取り壊した後に空き地化につながることで、城下町の景観が損なわれ始めている。 ・観光ハイシーズン時の市街地の交通混雑の解消や安全性の向上が求められている。 II. 今後の方向性と具体的な展開 ・郡上おどりの将来の担い手を育てるため、小学校と連携し小学生への民謡指導を継続して実施する。 ・城下町である中心市街地では、現代まで継承されてきた町並みや景観・伝統文化を未来に引き継いでいくため、受け継がれた貴重な文化財である祭礼用具等の整備支援及び活動支援を継続し、後継者育成と活動継続を図る。 ・空き家対策では、空き家バンク制度の運用により売買・賃貸希望所有者と購入・賃借希望者とのマッチングを行い空き家の利活用を促進し、空き家及び特定空家の発生と空き地化を抑制する。 ・観光ハイシーズンに誘導員を設置するなど、歩行者の安全確保、自動車の交通誘導による交通混雑の解消を図る。 ・大規模駐車場への誘導看板を設置したことによる駐車場利用状況を過去の調査と比較しながら、次の対策を検討する。

施策2:地域資源を活かした産業振興

【主管課:商工観光部 観光課】

評価**B****目指す姿に向けて概ね順調であるが、一部努力を要する。**

▶後期基本計画策定時の「現状と課題」

- ・新型コロナウイルス感染症による外国人観光客と団体客の減少
- ・地域資源の有効な活用体制が必要

◎後期基本計画策定時の「目指す姿」

地域資源の有効な活用と社会変化に対応した観光関連産業の発展により地域が活性化しているまち

I. 施策の取組効果や達成状況に関する分析(関連する事務事業の成果や積み残されている課題など)

【成果】

- ・外国人誘客促進事業では、郡上市観光連盟による台湾レップを通じた現地旅行会社へのインセンティブ施策を実施し、4月から9月の間に65団体(32団体増)1,901人(1,057人増)が来訪した。英語ガイド育成では、前年度からの受講生のフォローアップ研修と令和5年度受講生の講座を実施し、令和6年度から組織を立ち上げ、訪日旅行者の受入を始める。東海地区外国人観光客誘致促進協議会、岐阜・下呂・郡上観光宣伝協議会、尾張藩連携事業推進協議会との連携事業では、FIT(海外個人旅行)向け旅行商品造成と現地旅行会社へのプロモーションを実施した。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により減少した国内の団体客、宿泊客の回復を目的に、体験型商品や教育旅行の助成事業等による誘客支援を実施した。
- ・郡上市観光連盟によるアウトドア予約サイト「郡上ノアソブ」を活用し、地域資源を活かしたグリーンツーリズム等の商品造成支援や観光協会と連携した誘客促進のセールスコール活動を実施した。
- ・郡上おどりの保存・継承に向け、関係団体、おどりファン等の公募委員による「郡上おどり保存活用計画」の策定に取り組んだ(策定は令和6年度)。後継者育成、技能継承、市民の参加意識醸成、おどりの魅力向上、持続的な運営についての取り組みが計画に盛り込まれた。
- ・八幡小学校3年生を対象として民謡指導を実施。民謡に触れる機会をつくることで郡上おどり(郡上節)への参加意識の醸成や技能習得につなげた。
- ・郡上八幡城のゴールデンウィーク、紅葉期間の渋滞解消に向けて交通実証運行(シャトルバス運行)を実施した。合計9,359人(GW4,548人 紅葉4,811人)が利用し、城山公園付近での渋滞が緩和された。
- ・指定管理施設の適正な維持管理を目的とした定期点検・モニタリング等を実施した。

【課題】

- ・国内外の誘客促進やイベント等の実施に向けた取り組みや課題等の整理が必要。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により減少した訪日外国人観光客数、宿泊客数等について、コロナ禍前への回復に向けた誘客促進事業の展開と受入体制の整備・強化が不十分であり、強化が求められている。
- ・デジタルマーケティングの活用による来訪者の属性、趣向、周遊、消費状況等の把握と情報発信、誘客促進戦略の市内事業者への展開が求められる。
- ・デジタルマーケティング、アウトドア予約サイト等を活用した地域資源を生かしたグリーンツーリズム、マイクロツーリズムのプロモーション、商品造成等の促進、観光連盟・観光協会の連携による通年型観光に対応する観光商品の造成及びプロモーションの検討を更に進める必要がある。
- ・郡上おどり保存活用計画に定める取り組みを具体化し、実行に移すための組織づくりが求められている。
- ・渋滞解消のシャトルバス運行については、本格運行を行う組織が定まっていない。

II. 今後の方向性と具体的な展開

- ・観光客の動きは回復傾向にあるが、豪州など新規市場の開拓に向け、積極的な観光PRキャンペーン等を展開する。
- ・観光誘客促進事業では、プロモーション力強化のためレップ等を活用した現地旅行会社、メディア等への効果的なPRや営業を行い、商品造成、誘客促進に繋げていくとともに、英語ガイドを活用した受け入れ体制の強化を行う。
- ・Web会員を実訪問に繋げるための施策を展開する。特にデジタルマーケティングを活用した事業効果を検証できる仕組みとして、ペイメントシステム(郡上eぐ〜ぼん、郡上ふるさとコイン)から得られるデータを活用しながら各種観光施策等の立案を行う。
- ・アウトドアWeb予約システムを軸とした商品造成及び予約促進プロモーションを実施する。
- ・保存活用計画の方針を実行に移すため、計画にあげる郡上おどりに関わる人全てで役割分担のもと、プロジェクトチームを構築する。郡上おどり運営委員会、プロジェクトチームを中心として、令和6年度にはロードマップ作成、始められる取り組みを開始していく。
- ・郡上おどりの後継者育成、参加促進を段階的(興味を持つ→もっと学びたい→披露したい)に進めるため、民謡の専門家による指導に加えて、郡上おどり保存会、おはやしクラブによる指導、郡上おどり保存会ジュニアクラブの紹介を実施していく。
- ・シャトルバスの本格運行など、渋滞解消に向けた対策について、郡上八幡城の指定管理者等と協議を行う。
- ・指定管理施設等の機能を有効活用するため、定期的にモニタリング、点検等を実施する。

評価

B

目指す姿に向けて概ね順調であるが、一部努力を要する。

▶後期基本計画策定時の「現状と課題」	◎後期基本計画策定時の「目指す姿」
・高齢化や人材不足による各組織の活動の停滞 ・若い世代の地域活動への参加減少	生活サービスや地域活動の場をつなぐ地域運営組織が設立され、地域住民が主体的に地域づくり活動に参画し、互いに支え合うまち

I. 施策の取組効果や達成状況に関する分析(関連する事務事業の成果や積み残されている課題など)

【成果】

・花飾り推進事業、町家オイデナーレ開催、八幡地域協議会内の各団体による行事等開催など、地域の課題は地域で考えて対応する機運が高まりつつあり、一部の地区では、「小さな拠点とネットワーク」の考えに基づく取り組みが進んでおり、持続可能な地域を目指して活動している。また、八幡地域協議会では、課題検討部会を設置し、地域の課題やその解決策についての検討を始めている。

【課題】

・地区により活動に対する意欲に温度差があるため、地域の課題を自分事として認識し、自発的な活動を促していくとともに、地域を担う人材の育成・確保が必要である。

II. 今後の方向性と具体的な展開

・地域協議会により各地域づくり団体の活動を共有し、地域づくり団体未設置地区での設立に向けた啓発と理解の深化が求められる。また「地域運営を推進するための仕組みの整備(指針)」のとおり、地域協議会を中心に地域運営について協議・実行を行っていき、八幡全域に「小さな拠点とネットワーク」の考えを根付かせ、住民が主体となった地域づくりの確立を目指す。

■後期基本計画策定後新たに生じた課題等

■関連する個別計画の有無	
有	八幡地域振興計画